

感動一点の場

『ヤク』
1983年 小川原 脩 画



ヤクは標高4千～6千[㍎]の草原、岩場に生息するウシ科の動物です。体重は350～580^{キロ}、心臓は牛の1.4倍、肺は2倍の大きさがあり、ヤクを飼育している動物園はほんの数カ所しかなく、日本でヤクを目にすることはめったにありません。

小川原脩が初めてチベットを訪れた1981年のことです。標高600[㍎]の中国四川省・成都からいきなり標高3600[㍎]の高地へ移動したため、高山病になりました。そんな高地で出会ったヤクは、大きな珍しい生き物に映ったことでしょう。

画面の上部には小さな建物の集まりが、まるで遠く高い場所にあるように描かれ、大きなヤクが引き立つような構図を作っています。黒く塗られた丸い目に引き込まれます。巨体を揺らしながら乾いた地面を歩く姿は、人との隔たりのない空間で同等の存在であることを主張しているようです。

巡礼者たちが聖地に向かって一方的な流れをつくる中、悠々とヤクも通るチベットの街。人と動物が織りなすおらかな情景の中で、ヤクは小川原にとって印象的な動物となり、作品に描かれたのでした。

文：金澤 逸子（小川原脩記念美術館 学芸スタッフ）

羊蹄山のタンポポ

夏空がまぶしい季節となりました。道端や土手、野原、公園など至る所で、タンポポの花を見かけます。タンポポはキク科の多年草で、日本にはエゾタンポポやカントウタンポポなど約20種が自生し、セイヨウタンポポ、アカミタンポポの2種が帰化しています。

今、私たちがよく目にするのは外来種のセイヨウタンポポです。しかし、羊蹄山にはかつて「オダサムタンポポ」と呼ばれるタンポポが自生していたことを知っていますか。

オダサムタンポポは、1926年8月8日、小田切辰太郎が樺太島の栄浜村「小田寒」で採集したことから名付けられた和名です。日本には羊蹄山と檜山郡の大平山にのみ自生しているとされていましたが、後の研究で、「オダサムタンポポ」と見られていた羊蹄山のタンポポは「エゾタンポポ」とであると発表されました。

エゾタンポポは、日当たりの良い低地や山地の草地、林縁、林内、時に羊蹄山のような高山帯に生え、5～7月ごろに花を咲かせます。見た目は同じ黄色い花でも、花の下の方の緑色の部分（外総苞片）が反り返っているものがセイヨウタンポポ、反り返っていないものが日本のタンポポです。町内を散歩するときや羊蹄山へ登山する際は、エゾタンポポを探してみたいかがでしょうか。

文：滝澤 クリスティーナ（倶知安風土館 学芸補助員）



エゾタンポポ（羊蹄山にて撮影）

展覧会のお知らせ

■第1展示室

しりべしミュージアムロード共同展「^{まる}〇！」

岩内町の荒井記念美術館と木田金次郎美術館、共和町の西村計雄記念美術館、ニセコ町の有島記念館、そして当館の〇をテーマにした5館の展覧会を巡ってお楽しみください。

【小川原脩記念美術館『ふるさと・まるごと・風景画』～小川原脩・木田金次郎・西村計雄の作品展示】

会期：7月15日(土)～9月24日(日)

■第2展示室

岸本春代展「Plants & Animals いきとしいけるもの」

リアルな動物たちに、たわわに実る果実や枯れ木の質感。圧倒の描写力が生み出す作品世界に潜む、物語の仕掛けを見つけられるでしょうか。圧巻の岸本作品の数々をお楽しみください。

会期：7月15日(土)～9月24日(日)

【岸本春代展オープニングイベント&アーティストトーク】

日時：7月15日(土)10時～10時45分※予約不要（無料）

アート・イベントのお知らせ

■ミュージアム・コンサート

しりべしミュージアムロード・コンサート2023

「フルート四重奏による魅惑のサウンド” 色彩と調和”」

出演：HIKAY Quartet 按田佳央理（フルート）、林ひかる（ヴァイオリン）、今井佑佳（ヴィオラ）、山田慶一（チェロ）

日時：7月22日(土)11時～11時40分

会場：当館ロビー（無料）※予約不要（当日先着70席）

■造形活動ワークショップ

「むつ先生と絵あそびしよう～たねをまこう」

今年は夏休みに開催します！今回のお題は、点を描いて「種まき」をして、芽が出て・・・と楽しい絵を描いていきます。どんな畑ができあがるでしょうか？

日時：8月12日(土)①10時30分～、②13時30分～

会場：ロビー（参加無料）講師：宮崎むつさん（美術家）

定員：各回6組※要予約（小学生とその家族が対象）

予約受付：7月26日(水)9時から電話申込（☎21－4141）

倶知安風土館のお知らせ

■寺子屋ミュージアム「めざせ！昆虫標本マスター②～応用編～」

自分で昆虫を捕まえて、標本を作ります（少雨決行）。

日時：7月22日(土)9時30分～16時30分 集合：倶知安風土館 定員：10人※要予約

講師：小田桐亮（学芸員）参加費：250円（保険料）

予約受付：7月14日(金)までに電話申込（☎22－6631）

■倶知安いきもの調査隊「引き抜け！オオハングンソウ」

森にはびこる外来種・オオハングンソウを引き抜きます（少雨決行）。

日時：7月23日(日)9時～12時 集合：百年の森公園 定員：なし※予約不要 参加費：無料

講師：小田桐亮（風土館職員）、宮崎守（百年の森管理人）

持ち物：帽子、軍手、飲み物、タオル、虫よけスプレーなど

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一般 500円（400円）

高校生 300円（200円）

小中学生 100円（50円）

倶知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一般 200円（100円）

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時

入館は16時30分まで

※（ ）内は10名以上の団体料金

7月の休館日 毎週火曜日、
美術館：3日(月)～14日(金)（展示替え）

15日(土)は展覧会初日のため美術館観覧無料、
17日(月)は「道みんの日」のため両館観覧無料、
22日(土)～8月21日(月)は夏休み期間のため
美術館小中高生観覧無料

日曜の朝は

若い頃は用事のない週末といえばひたすら寝続ける、なんて過ごし方をしていたものですが、近年ではトイレが近くなったり、腰が痛くなったりして勝手に目が覚めてしまうようになり、せっかくの朝の時間をいささか持て余していました。

されど美術館長になってからは、某局の「日曜美術館」を観る習慣ができました。あの番組はいいですね。出掛ける予定がなくとも美術に関する知識が身につくし、美しいものを観れば心に余裕が生まれます。

そして興味が湧いたら、近くの美術館に出掛けてみる。素敵な休日になること請け合いです。

館長 福原 秀和